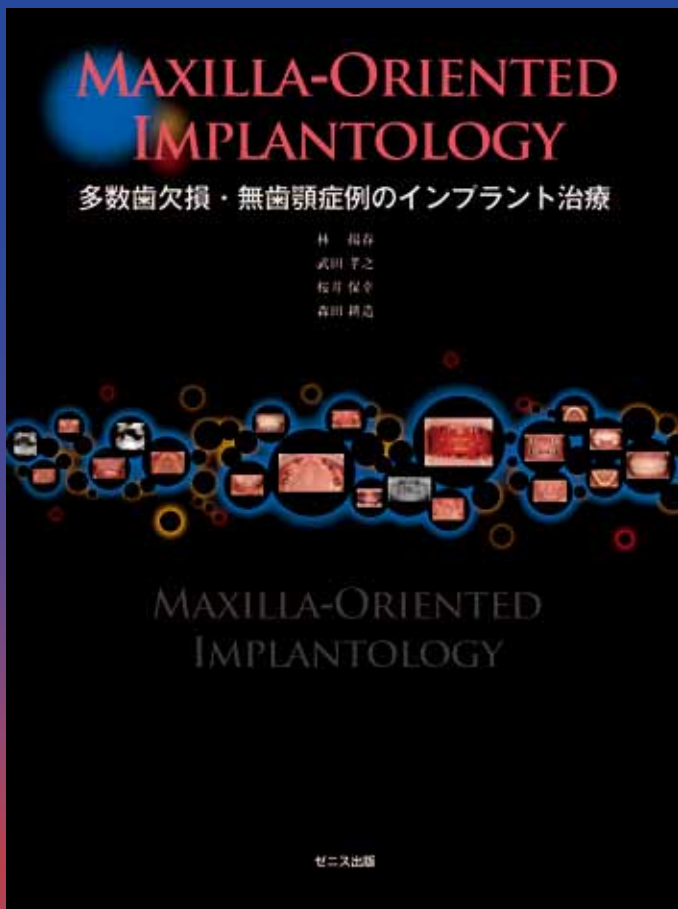


# MAXILLA-ORIENTED IMPLANTOLOGY

## 多数歯欠損・無歯顎症例のインプラント治療



著者  
林 揚春  
武田 孝之  
桜井 保幸  
森田 耕造

A4 変形・312頁  
定価：23,100円  
(本体：22,000円+税)

編集・発行 / ゼニス出版

2010年6月20日発刊

歯は栄養器官の重要な構成要素である。歯が多数存在し、咬合、下顎位が安定し、機能が維持されていることは栄養、運動、精神面において直接、間接的に関与している。それゆえ、8020運動の達成は国民のQOLの維持のために大きく寄与するが、一方で種々の理由から多数歯を喪失してしまった患者に対する健康回復も歯科従事者として重要な課題である。

日本は世界に類を見ないスピードで超高齢社会に突入してしまったが、歯の寿命は生命ほど長くなっておらず欠損に対する回復と天然歯への対応をよく考えねばならない。さらに、メタボリックシンドロームに代表されるように生活習慣に起因する問題が重篤な疾患に直接関与していることも認知されており、可及的早期に生活習慣を改善することが健康で長生きすることに直結している。インプラント補綴を行いよく噛めるということは全身的な健康に大きく寄与できる可能性を手にすることができる。

「食べることは生きること」であり、特に高齢者においてはその重要性が増すために、よく噛むことの重要性を歯科医師が説き、実際の指導を歯科衛生士が患者の肩をたたきながら歩いていくことこそが、今行うべきことである。

特に多数歯欠損、無歯顎症例におけるインプラント補綴の役割は咀嚼機能の回復とその上に成り立つ生活習慣の改善にあることを肝に銘じていただきたい。

現在のインプラント治療のスタンダードをこの一冊を通して、実感していただき、安全に実践していただきたい。なによりも先生方の目の前の患者のために。

(本文より抜粋)

ご注文は



〒112-0004

Tel.03-3816-7818 Fax.03-3818-0837

<http://www.shien.co.jp>

# CONTENTS

## 第一章 MAXILLA-ORIENTED IMPLANTOLOGY の概念

### 1. 上下顎の力学的安定を考慮したインプラント補綴

- 1) 咬合関係として
- 2) 欠損歯列として
- 3) 欠損補綴として(残存歯への影響)
- 4) 欠損補綴として(顎堤への影響)
- 5) 欠損歯列のエンドポイントとインプラント補綴
- 6) 上下顎の骨の違いと対応

### 2. インプラント治療の原理原則

- 1) 患者中心型のインプラント治療の流れ
- 2) リスクの大きさと種類を考慮した臨床対応
- 3) ハイリスクとローリスクの対応の違い
- 4) 歯の喪失原因としてのリスク
- 5) インプラント治療後の合併症から考えるリスクへの対応

## 第二章 治療計画 TREATMENT PLANNING

### 1. リスクの把握を目的とした検査と診察

- 1) リスクの種類と大きさ
- 2) インプラント治療における臨床検査の意義
- 3) インプラント治療の流れと臨床検査
- 4) 血液、尿検査(スクリーニング)
- 5) CTによる三次元的顎骨検査
- 6) 歯の喪失原因の把握
- 7) アレルギー検査
- 8) 改めて臨床検査の重要性

### 2. インプラント適用を考えるべき客観的要素

- 1) 年齢
- 2) 慢性疾患の有無とコントロールの難しさ
- 3) 歯の喪失原因とリスク(種類と大きさ)
- 4) 咬合支持(上下顎、歯列内配置)
- 5) 支台歯の条件(歯髄の有無、歯質)

### 3. 補綴設計とインプラント埋入計画

- 1) リスクを反映した補綴設計、上部構造の基本原則
- 2) ローリスクとハイリスク患者における補綴設計の基本原則
- 3) 上部構造作製と術後対応から推奨される補綴法の選択とインプラントの埋入位置
- 4) 患者の固有条件を主体とした補綴設計の原則
  - 1: 義歯装着の有無 / 2: 上下顎対向関係 / 3: 前歯排列位置と顎堤の位置関係 / 4: 顎堤の左右対称性 / 5: 骨質 / 6: クロスアーチとセグメント / 7: インプラントの本数

### 4. 診断用ワックスアップ

- 1) 診断用ワックスアップに必要な情報
- 2) 診断用ワックスアップ
- 3) 最終補綴物の設計や様式の決定基準

### 5. サージカルステントの製作

- 1) サージカルステントの製作方法

## 第三章 外科処置 SURGERY

### 1. インプラント埋入手術

- 1) 抜歯即時 vs 抜歯待時
- 2) インプラントの選択
- 3) 既存骨を中心としたインプラント埋入
- 4) 多数歯抜歯即時埋入
- 5) セグメントによる補綴設計のインプラントポジション

- 6) ガム付上部構造の補綴設計とインプラントポジション

- 7) オーバーデンチャーの補綴設計とインプラント埋入ポジション

### 2. インプラントのための関連テクニック

- 1) ソケットリフト 2) スプリットクレスト

## 第四章 治癒期間 HEALING PERIOD

### 1. 治癒期間の配慮

### 2. 治癒期間における暫間補綴物の種類と選択基準

### 3. PVRの作製と使用目的

- 1) PVRは通常2~3度作製する
- 2) PVRの必要条件
- 3) インプラントにおけるPVR
- 4) PVRの作製
- 5) PVRの材料について
- 6) PVRの臨床応用例

### 4. テンポラリーデンチャー

### 5. 咬合安定群

### 6. 咬合不安定群

### 7. イミディエートプロビジョナルインプラントの応用

### 8. Submerged Root Pontic(SRP): インプラント間あるいはインプラントに隣在する抜歯対象歯の処置

## 第五章 補綴処置 PROSTHESIS

### 1. インプラントの咬合

- 1) 咬合の基本原則
- 2) 安定した下顎位と咬頭嵌合位の維持
- 3) インプラントと天然歯が混在した歯列における咬合付与
- 4) 咬合支持の最遠心はどこに設定するのか
- 5) 咬頭嵌合位における咬合付与
- 6) 偏心運動時における誘導条件
- 7) 経年的変化への対応

### 2. 診療と技工操作の流れ

### 3. 上部構造のフレームデザイン

- 1) メタルオクルーザルのメタルボンドブリッジ
- 2) フルベイクのメタルボンドブリッジ
- 3) ジルコニアポーセレン

## 第六章 オーバーデンチャー OVER DENTURE

### 1. オーバーデンチャー適用における上顎無歯顎症例の特徴

### 2. 上下顎無歯顎症例における欠損(欠損歯列) および解剖学的条件の違い

### 3. 維持装置と補綴後の合併症

- 1) バー 2) Oリング 3) マグネット 4) ロケーター

### 4. インプラントオーバーデンチャーの適用条件と必要条件

### 5. ロケーターを用いて作製したオーバーデンチャー

## 第七章 メインテナンス (サポーティスセラピー) MAINTENANCE (SUPPORTIVE THERAPY)

### 1. リスクを反映した予防プログラムの立案

- 1) 長期にわたる対応
- 2) インプラント周囲組織の感染
- 3) 時間経過とともに変化する患者の全身的なリスク
- 4) 力による変化

### 2. インプラント周囲組織に対する検査法と対応

### 3. 上部構造のチェック項目

### 4. メインテナンスの現実

### 5. メインテナンスの実際